

# 1 題材の目標及び題材構想

「災害後の生活を考えよう」（9時間完了）

## (1) 題材の目標

① 地域災害の歴史や土地の特徴を知り，具体的な災害対策を考えようとしている。	【生活や技術への関心・意欲・態度】
② 災害後の生活に備えた住まい方を工夫する。	【生活を工夫し創造する能力】
③ 災害後の生活を想定して，限られたライフラインの条件での食事づくりを通して，災害後の生活に必要な物が分かる。	【生活の技能】
④ 災害後の生活に備えた対策や，防災について理解する。	【生活や技術についての知識・理解】

## (2) 評価規準

生活や技術への関心・意欲・態度・・・【関】	地域災害の歴史や土地の特徴を知り，具体的な災害対策を考えることができる。
生活を工夫し，創造する能力・・・【工】	災害後の生活に備えた住まい方を工夫することができる。
生活の技能・・・【技】	災害後の生活を想定して，限られたライフラインの条件での食事作りを通して，災害後の生活に必要な物がわかる。
生活や技術についての知識・理解・・・【知】	災害後の生活に備えた対策や，防災について理解することができる。

## (3) 題材構想

段階	学習過程とねらい	時数	学習活動	教師の支援・留意点☆評価規準
基礎	1 住まいの役割と住まい方について知る。 ○日本各地の住まい ○住まいの役割 ○生活行為と住空間 ○家族と住まい ○日本の住まいと住まい方	2	○気付く ・暮らすために必要な住まいの機能と安全で心地よい室内条件について学び，よりよい住まい方を考える。 ・住まいの役割と家族の関わりについて理解し，生活行為と必要な住空間について考える。 ・日本の住まいと住まい方の特徴を挙げてまとめる。	・住まいがなかったらどのようなことで困るかを考えることで，住まいの役割に気付かせる。 ・家族構成や年齢によって住まい方が変わることに気付かせる。 ・住まいは気候風土が影響していることを知り，日本の住まいのよさに気付かせる。 ☆住まいの役割や日本や日本各地の気候風土と関連させながら，自分の住まいの特徴や日本の住まいの特徴に気付くことができたか。（ワークシート）【知】
基礎	2 住まいの安全について考える。 ○安全で安心な住まい ○家庭内事故と原因 ○家庭内事故の防止	1	○考える ・家庭内で起こる事故について知り，その対策や安全管理の必要性を理解し，安全	・教科書のイラストや資料を見て，事故は身近なところで起こることに気付かせる。 ・バリアフリーやユニバーサルデザインに目を向けさせること

	○住まいのバリアフリー		な住まい方を工夫し考える。 ・住まいの中の危険な場所について、事故防止の対策を考える。	で、誰もが安全に暮らせる工夫ができることに気付かせる。 ☆意欲的に考えたり、意見交流をしたりしようとしたか。 (発表の内容)【工】
基 礎	3 健康で快適な室内環境を工夫しよう。 ○健康で心地よい住まい ○室内空気の汚れと健康 ○室内空気と換気 ○音と生活との関わり	1	○確かめる ・自分の住まいの室内環境を確認する。 ・温度計や騒音計を使って体験することで快適な室内環境を確認する。	・健康で心地よい住まい方は人によって感じ方が違い、配慮が必要なことに気付かせる。 ・室内空気は窓の配置の工夫で変わること気付かせる。 ☆家族が安全で快適に住むための方法について考え、工夫できたか。 (実習の様子、ワークシート)【工】
応 用	4 災害に備えた住まい方について考えよう。 ○災害と住まい ○住まいの災害対策	4	○創造する ・自分の住まいでは、どのような災害に備えておくことが必要か確認し、災害に備えた住まい方を創造する。 ・災害時に必要な物を話し合い、非常持ち出し袋を作る。 ・災害時を想定した食事を工夫し作る。	・日本は自然災害の被害を受けやすいことを示すことで、災害対策の意識を高められるようにする。 ・生活に関連させながら、必要な水の量や食事を考えるよう助言する。 ・ライフラインが制限されることがあることも考慮に入れる。 ☆災害時を想定して、実習ができたか。 (実習の様子、ワークシート) 【工】【技】
発 展	5 よりよい住生活を目指そう。 ○住まいと地域 ○環境に配慮した住生活	1	○生かす ・家族が心地よく住むために、自分たちができることを考える。 ・家族に高齢者がいる場合の住生活の工夫を考える。 ・家族に乳幼児がいる場合の住生活の工夫を考える。	☆これまでの学習を生かし、家族が安全に快適に住むための方法について考えようとしたか。 (ワークシート)【関】